

学校交流 Q & A

Q：訪日教育旅行は、日本の修学旅行とどのような点で異なりますか？

A：日本の修学旅行のように学年のほぼ全員が参加するケースは少なく、希望者や推薦を受けた児童・生徒が30名から80名程度で来日する「教育旅行」がほとんどです。

Q：どこの国からの教育旅行が多いですか？

A：ほとんどがアジアからで、中国・台湾・韓国が中心です。

Q：学校交流の受け入れは初めてで、校内の受け入れ体制もありません。どう交流すればよろしいですか？

A：特別なメニューを準備・実施しようとする負担が大きくなりますので、普通の授業や部活動、学校行事、学級活動等を活用した交流から始めるのがよいと思います。また、訪問校も児童・生徒間の交流を希望される場合が多いので、司会・進行・案内なども含め、子どもたちが積極的に関わる方策を考えてみてください。保護者や地域の方が参加・協力された学校もあります。兵庫県国際交流協会では、担当者が受け入れ校との打ち合わせ、訪問校や依頼元との連絡・調整、当日の立ち会い等も行っています。

Q：学校交流の依頼を受けてから実施まで、準備期間はどれくらいですか？

A：教育旅行は少人数で小回りが利くためか、あるいは一般的に学校行事の立案が遅いのか、依頼元から当協会への交流依頼のほとんどが、1ヶ月から2ヶ月前に来ます。過去には、スケジュールや訪問人数の急な変更等で、受け入れ校にご迷惑をお掛けしたこともありました。より良い交流のため、依頼元には今後も改善を強く求めていきます。

Q：交流の時間や交流内容は、受け入れ校の希望を聞いてもらえますか？

A：交流時間は、ほとんどが2～3時間程度ですが、当協会では内容も含めて受け入れ校の希望を優先します。

Q：全校や学年全体で歓迎行事をしなければなりませんか？

A：歓迎行事など、形式的なことは喜ばれますが、学校にはそれぞれの事情がありますので、学校の事情に合わせていただいて結構です。もちろん、授業中であれば、児童・生徒なしでの歓迎レセプションで十分です。

Q：本校にはアジアの言語を通訳できる教員がいません。通訳は誰がするのですか？

A：訪問団には、バス1台につき1名のガイドを兼ねた通訳が添乗します。また、必要があれば当協会等からの派遣を調整しますので、ご相談ください。

Q：児童・生徒同士が交流する場合、日本語での交流は可能ですか？

A：小学生の場合はほとんど無理ですので、通訳を介して交流することになります。中・高校生の場合、日本の生徒より英語での会話が堪能であることが多く、英語で交流すると刺激を受けるでしょう。また、筆談を意志疎通の手段として使うのもよいと思います。子どもたちは意外と言葉が通じなくとも交流をします。

Q：学校間での記念品の交換や生徒間のおみやげ交換は必要ですか？

A：ほとんどの学校・団体が、学校への記念品を持参されます。お返しをされなくても失礼にはならないでしょうが、周年行事で作られた記念品や学校紹介のDVD、生徒の作品、当日の交流写真入りの額など、負担にならないように工夫いただくのが良いかと思います。児童・生徒間の交換については、あらかじめ訪問校に準備しないように指導してもらいます。学校の授業で作った手作りの簡単な作品等がある場合は、事前に相談してください。

Q：受け入れに必要な経費は、受け入れ校が負担するのですか？

A：現時点では、原則として受け入れ校に負担をお願いしていますが、お茶（ペットボトル）、歓迎横幕は当協会準備しています。

Q：国旗を掲揚したいのですが、相手国との位置関係を教えてください。

A：相手国の国旗を入口から見て左に、日本の国旗を右に掲揚してください。国旗は当協会が貸し出すことも出来ます。

Q：その他、交流で留意すべきことはありますか？

A：児童・生徒を主役に、温かく歓迎していただくことが大切です。相手国の国情、文化、歴史、地理、日本との関係などを事前に調べておかれるのも良いと思います。